

## 第3回 立野小学校 授業研究会

### 講師

國學院大学 人間開発学部	教授	寺本 貴啓	先生
玉川大学 教師教育リサーチセンター	客員教授	八嶋 真理子	先生
世田谷区立城山小学校	校長	佐藤 弘典	先生
横浜市立横浜深谷台小学校	校長	角井 治朗	先生
横浜市立三保小学校	校長	鈴木 康史	先生
横浜市立小机小学校	校長	遠藤 淳子	先生

### 授業者 1年3組 渡邊 絵里子 生活科「はなとなかよしだいさくせん」



植物を世話する活動や育ててみるの気づきを友達と伝え合う活動を通して、植物の立場に立って世話を見直し、植物の世話の仕方について考え、より大きく成長させるために進んで世話しようとする思いをもつことができるように授業をしました。

子どもたちは、グループでそれぞれの植物の成長を比べながら自分の植物の世話をし、栽培している植物が同じ種類でも友達のものや自分のものとは成長の度合いが違うことを知りました。また、違う植物では葉っぱの形や茎の太さなどが違うことも知りました。「私のお花、可愛いよ！見て！」と、近くにいる先生に声を掛け、懸命に自分の育てた植物のよさを伝えようとしていました。学習を振り返り、愛着をもって世話をすることが大切であると実感する姿や、知らないことや分からないことを粘り強く探究していく活動は自分とみんなにとって良いものであると気付く姿が見られました。

講師の先生からは、「子どもたちが自分の植物に愛着をもって話していた。」「グループ内で情報を交換し主体的に話していた。」と子どもたちへの評価をいただきました。

### 授業者 2年2組 神谷 有理 生活科「ぐんぐんそだてわたしのやさい」

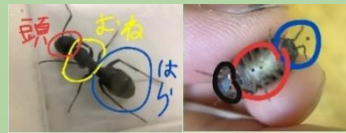


夏野菜を栽培する活動や栽培に関わる出来事を友達と伝え合う活動を通して、野菜の立場に立って世話を見直し、自分の育てている野菜にあった世話の仕方があることに気づき、野菜をもっとおいしく成長させるために進んで世話しようとする思いをもつことが出来るように授業をしました。

「実の長さが昨日よりも3ミリメートル伸びました！」と算数のものさしの学習を活用したり、「花びらの色が黄色からクリーム色に変わってきたよ。」と色の変化を細かく観察したりして友達と伝え合いました。振り返りでは、「友達や野菜のことを教えてくれて良かった。友達と協力できた。」「野菜会議楽しかった。」「みんなの野菜が大きくなって嬉しい。」と愛着をもって関わることで、植物も生きてると実感する姿が見られました。

講師の先生からは、「観察カードからも植物への愛着が伝わってくる。」「伝え合いが活発だった。」と子ども達への評価をいただきました。

## 授業者 3年3組 酒井 貴紀 理科「身の回りの生き物」



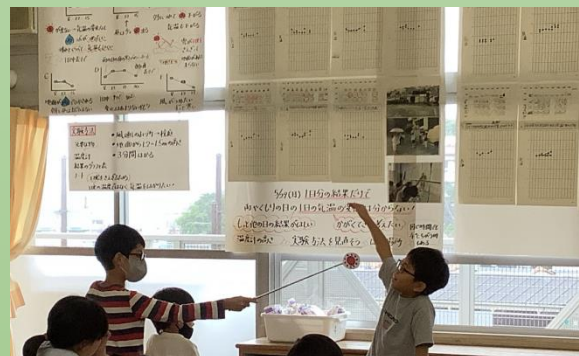
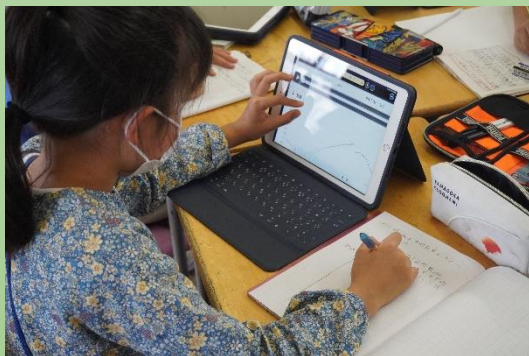
モンシロチョウやその他の虫の体のつくりを調べ、比較することを通して、頭、胸、腹に分かれているという昆虫の共通点を見だし、考察したことを表現して問題解決する授業をしました。

モンシロチョウの体のつくりとカブトムシの体のつくりを調べ、比較する中で、「本当に他のこん虫も同じような体のつくりをしているのか。」と疑問をもちました。前時の活動から「腹面から見ること」、「節のある部分が腹であること」など、観察の視点をもって調べることができました。テントウムシグループの子どもたちも、腹面からじっくりと観察することで、「あっ、ここが頭だ」と、確かめることができました。

講師の先生からは、「観察するための手立てがよかった。」「ダンゴムシの特徴について、子どもの発言を取り入れ展開していくとよい。」と評価と御助言をいただきました。

授業後の給食中、アゲハチョウが羽化し、講師の先生方にも見に来ていただきました。子どもたちにとっては嬉しかったらしく、大人も熱中するのだから自分たちの見ているものはすごいことなんだと改めて感じることができました。

## 授業者 4年3組 水野 花恋 理科「天気と1日の気温」



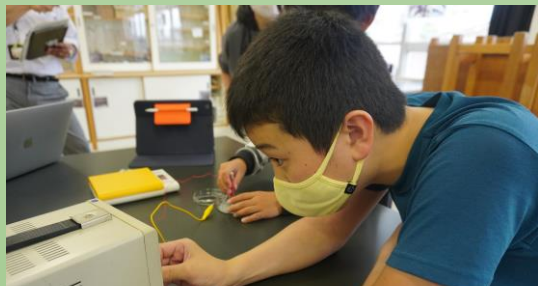
晴れの日と曇りや雨の日の1日の気温はどのように変化しているのかについて、考察したことをグループで話し合い、問題解決することができるような授業をしました。

温度計で測った結果とIoT百葉箱の結果を基に、複数の結果から考察し、結論を出しました。複数の結果を基に考察するよさについて、「1日の結果だけでは、納得した結論を出すことができない」「科学的に考えていくためには、複数の結果が必要である」と考えていきました。さらに、次の日の天気から、グラフの傾きを考えました。これまでの結果を基にすることで、根拠のある予想を立てることができました。

講師の先生からは、「どのグラフから分かることなのか結果を大切にすることができている。」「みんな学習することの達成感を感じることができていて、ウェルビーイングの授業だった。」と子どもたちへの評価をいただきました。



**授業者 5年3組 仲真 汐香**  
**理科「電流がつくる磁力」**



導線の巻き数を増やすと電磁石の磁力は強くなるのか、実験を行い、複数の結果からより妥当な考察をすることで問題解決できる授業をしました。

実験中にはボルトに引き付けられるマグチップの様子をじっくり見ることで「量が増えた！」という声や「皆は増えたと言っているのにうちの班だけ増えないのはおかしい。何が違うのだろう。」と複数の結果から実験方法を見直そうとする子どもの姿がありました。導線の巻き方が違うことに気が付き、細かいところまで条件をそろえて再度実験し、納得のいく結果を出そうと話し合っていました。

講師の先生からは「他の班の結果を取り残さないで、科学的に考えることを大切にしながら問題解決に向かっている。」と子どもたちへの評価をいただきました。

**授業者 6年1組 森田 千智**  
**理科「電気の利用」**



なぜLEDは豆電球と比べて長持ちするのか、実験をして、複数の結果を基に、より妥当な考察をして問題解決することができる授業をしました。

豆電球と比べてLEDは小さい電流で長時間光り続けていることに子どもたちは驚いていました。また、科学的な結果を出すために、複数回実験をして確かめている姿も見られました。より妥当な考察をするには、どの結果を基に考察しているのか、結果を明確にして考えていきました。

講師の先生方からは、「目的を明確にして予想を確かめるための実験方法を発想する力が付いている。」「役割を分担して効率よくタブレットを活用できている。」と子どもたちへの評価をいただきました。